

平成24年度 農業高校助成事業（実践力育成助成）

事業主体名 鹿児島県立伊佐農林高等学校

1 目的

現在の我が国の畜産業は安価な輸入飼料に頼っている。近年国の施策として自給率向上のために、飼料米の生産促進が図られている。本校は、飼料米を生産し、これを飼料として利用する研究を行ってきた。さらに地域農産物やその出荷調整時に生じる廃棄物を飼料として有効利用することは、自給率向上に繋がり、地域農業の課題解決になると考える。

2 実施状況

(1) 飼料配合の実施

飼料米を主体とした飼料を作るために、それぞれの配合割合を決め製造している様子。とうもろこしが入っておらず輸入原料への依存性が低い。また、市販の飼料は原料が高止まりし、経営的に厳しい価格であるが、この配合飼料を与えることで経営コストを抑えられる。本校のある伊佐市は県内でも有数の米所であり、市場で販売できない碎米も飼料として利用できることから、未利用資源の有効活用という面からも生徒への学習効果が高まった。



(2) ケーキハウスシンとの加工品開発の実施

ケーキハウスシンに実際に出向き、生徒たちの製造している鶏卵がどのような行程でお菓子になっているかを研修した。参加した生徒たちは、日頃の実習で生産したものがどのような過程を経てケーキなどの商品になるかを実際に学習し、畜産やそれに係わる仕事に興味・関心を持つことができ、進路実現へ向けての学習効果が高まった。本年度までの開発商品は、「キミって白いね」シリーズのロールケーキ、プリン、カステラであった。



3 今後の課題、取組

産卵鶏の飼料に飼料米を利用することは、国の施策としては推進されているが生産技術や鶏卵の流通面において課題がある。このような点をふまえて、今後、地域の稲作農家や事業所と連携し、飼料米で生産した鶏卵を利用した加工品の開発と販売活動に取り組み、地域農業と産業の活性化を図っていきたい。また、生徒にとっては生産から流通までを学ぶと同時に、地域の抱える課題を解決する能力を養うことができた。今後はコスト削減や栽培技術向上へ向けた取り組みが必要だ。

